

<Phase1>敷地・予算・法規制の確認

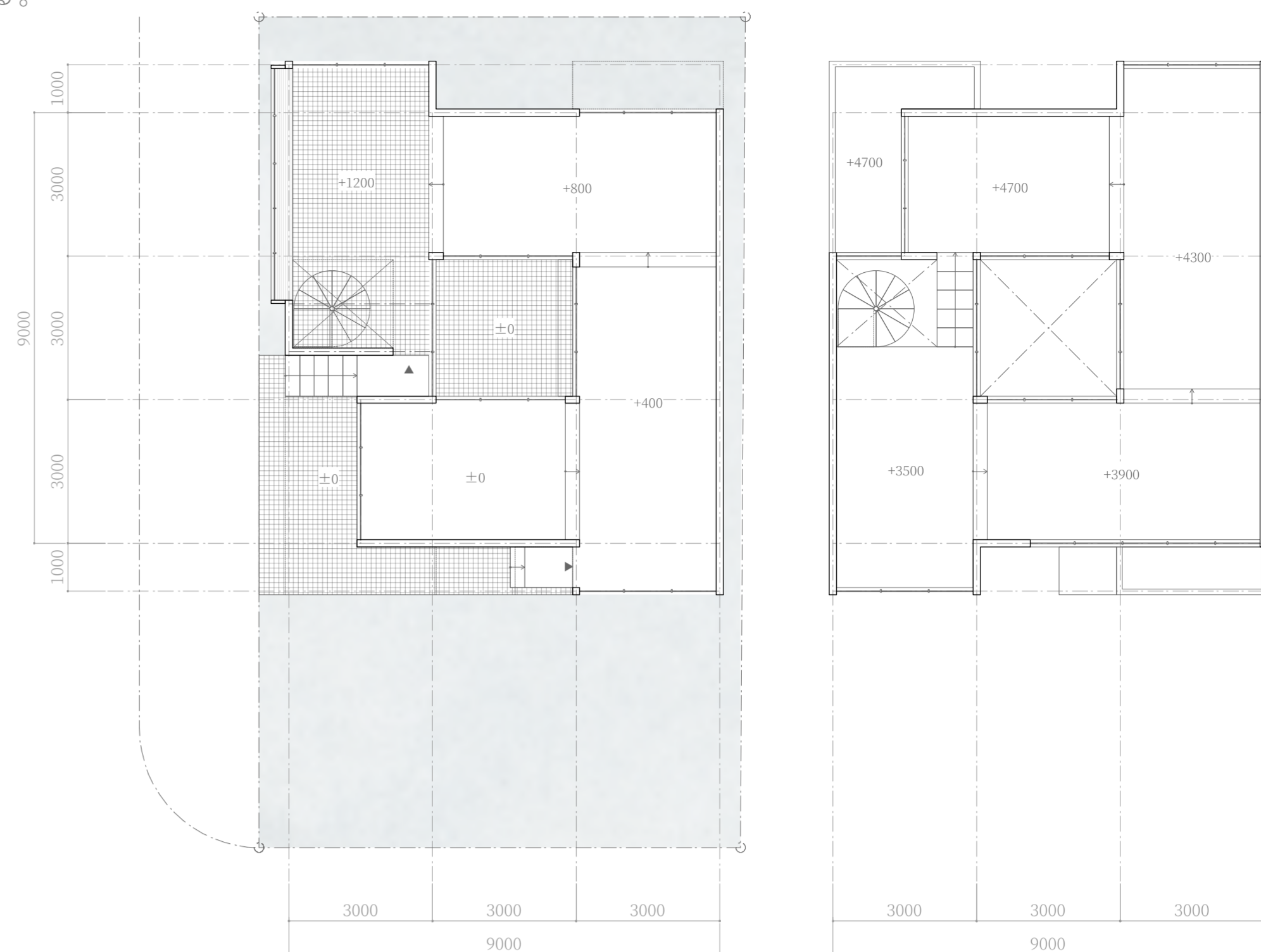
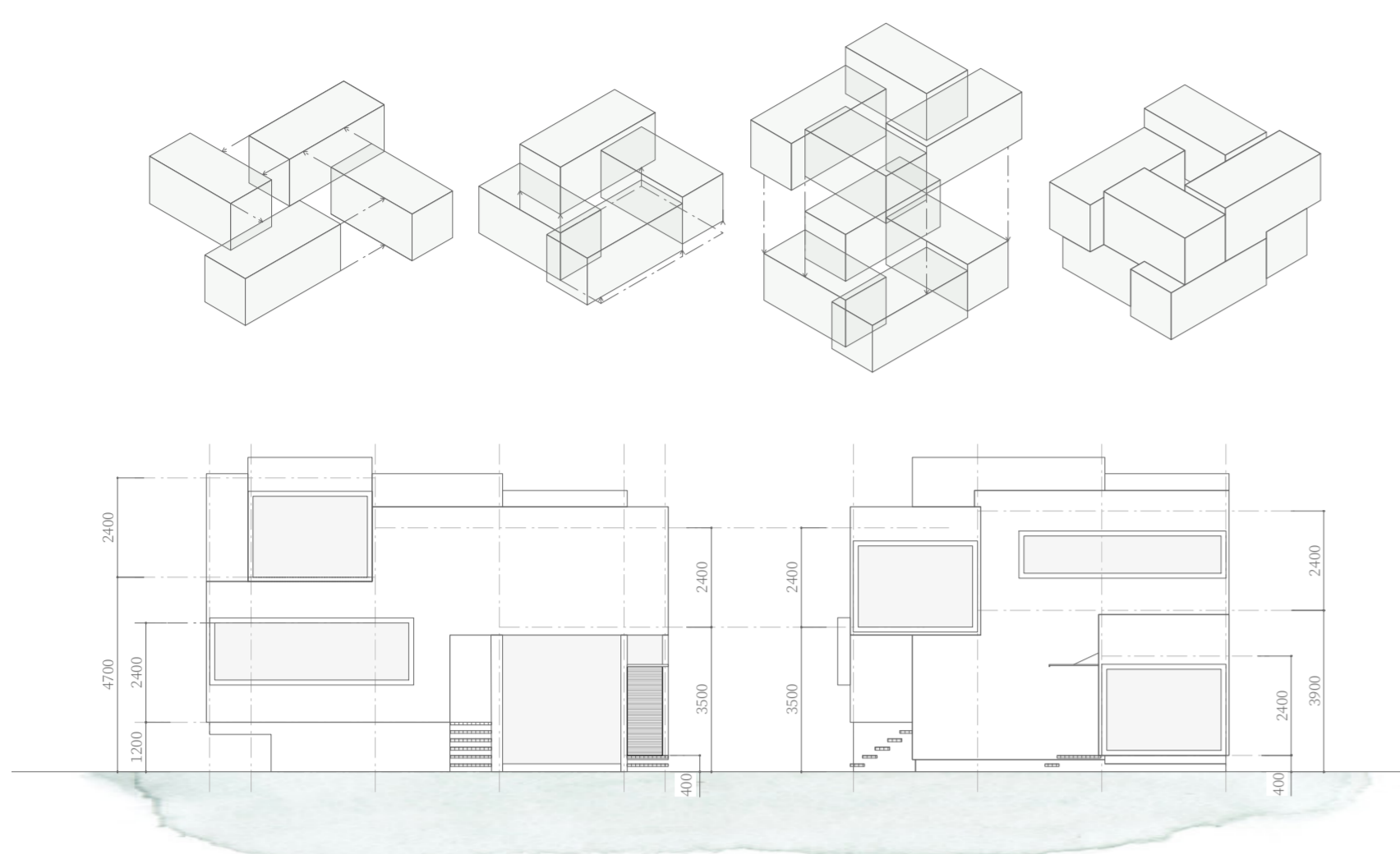
躯体を決める条件の確認。将来の不確定要素にも対応できる、自由な空間を計画する。

<Phase2>躯体をつくる

3M×6Mのユニットを交互に組み合わせ空間をつくる。ユニットごとに400mmずつ床レベル差をつけ変化を与える。

長期に渡り時代に即して維持できるよう、躯体の性能に配慮する。

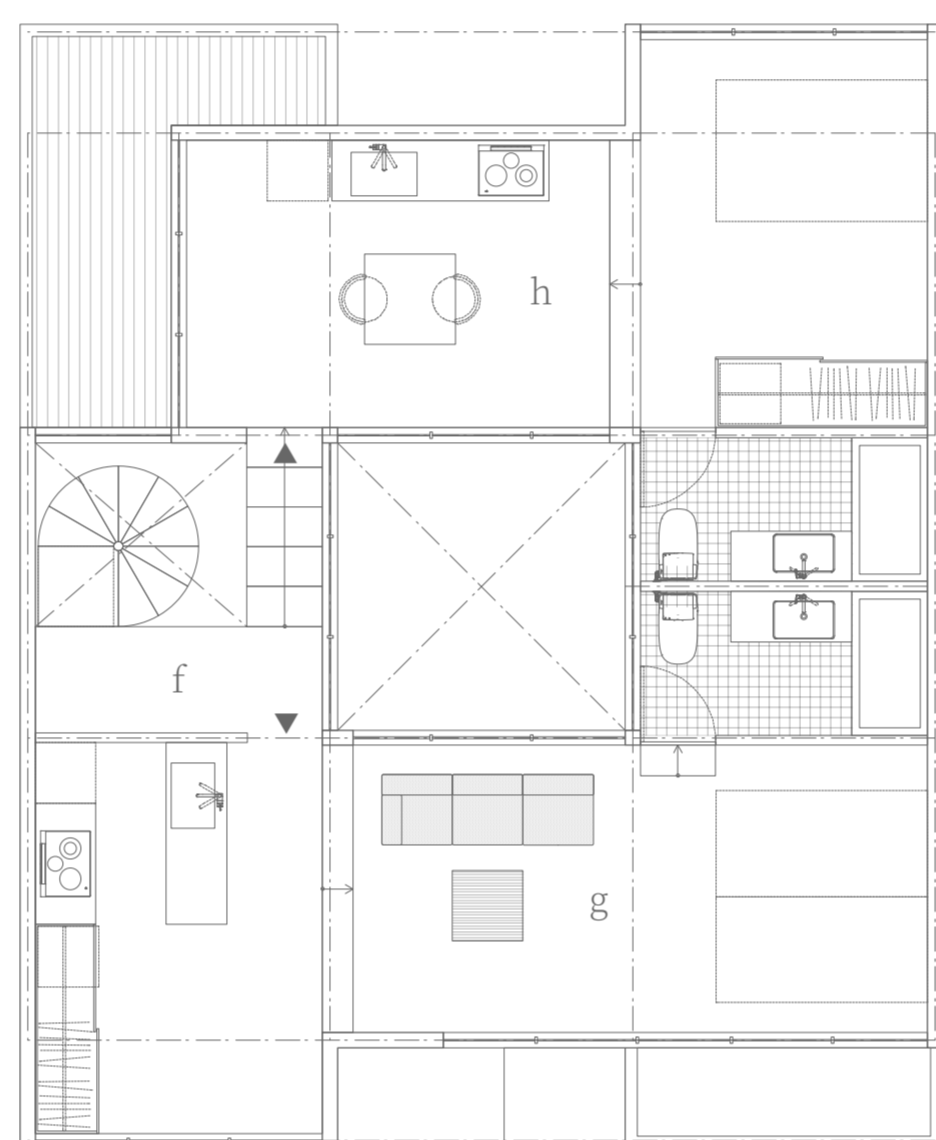
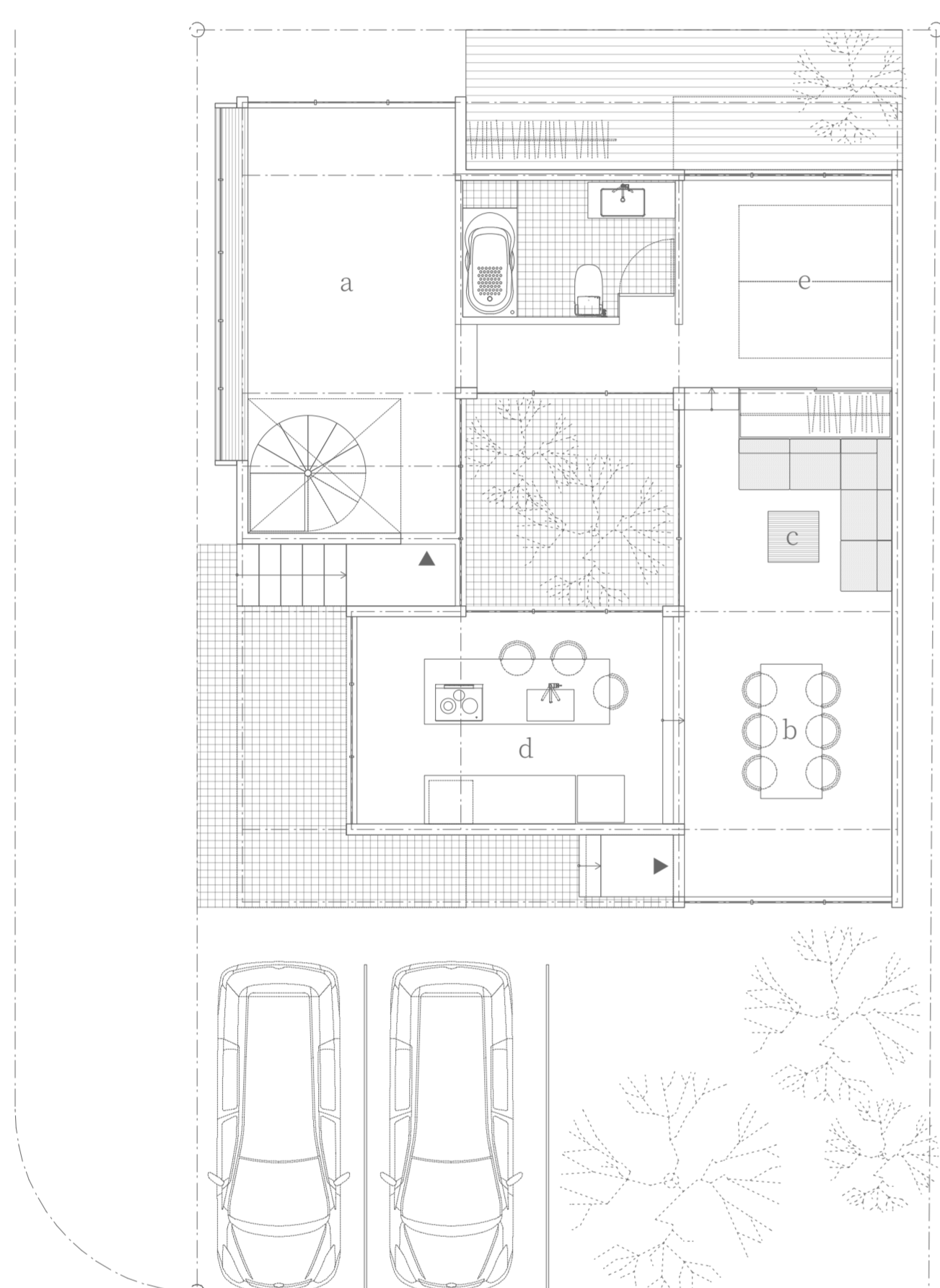
十分な断熱と、地震時にも被害を受けづらい耐震性を確保し、災害に強い省エネルギーな躯体を計画する。



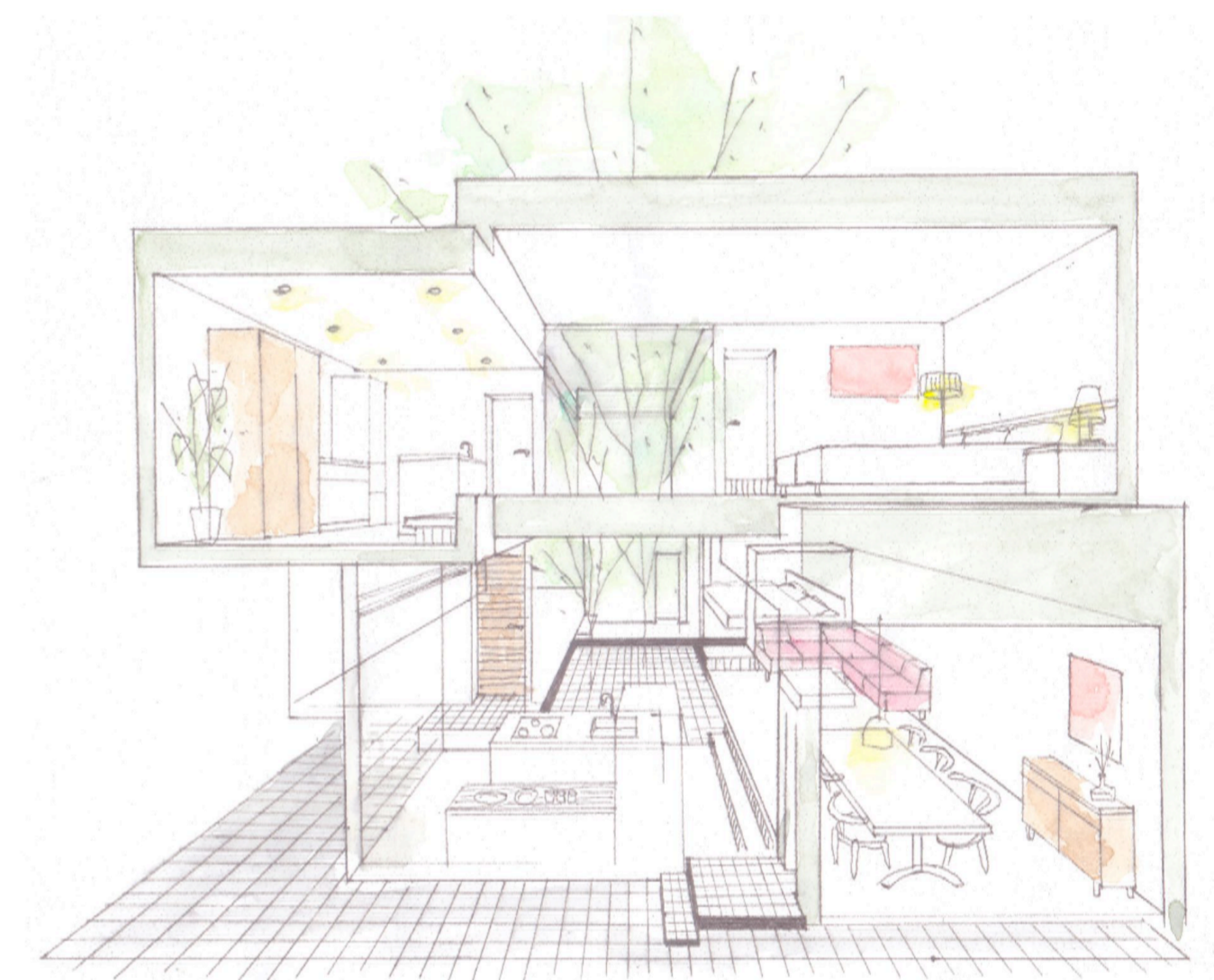
<Phase3>用途に合わせたインテリアをつくる

使い手の好みや希望に合わせた設えを計画する。間仕切壁や家具によりゾーニング。設備配管は床下空間から容易に取出可能になっている。

<Phase4> 第一用途として使う



- a: ホール
- b: ダイニング
- c: リビング
- d: キッチン
- e: 寝室
- f: ホール
- g: 賃貸住宅I
- h: 賃貸住宅II



<Phase5>使い方に変更が必要になる

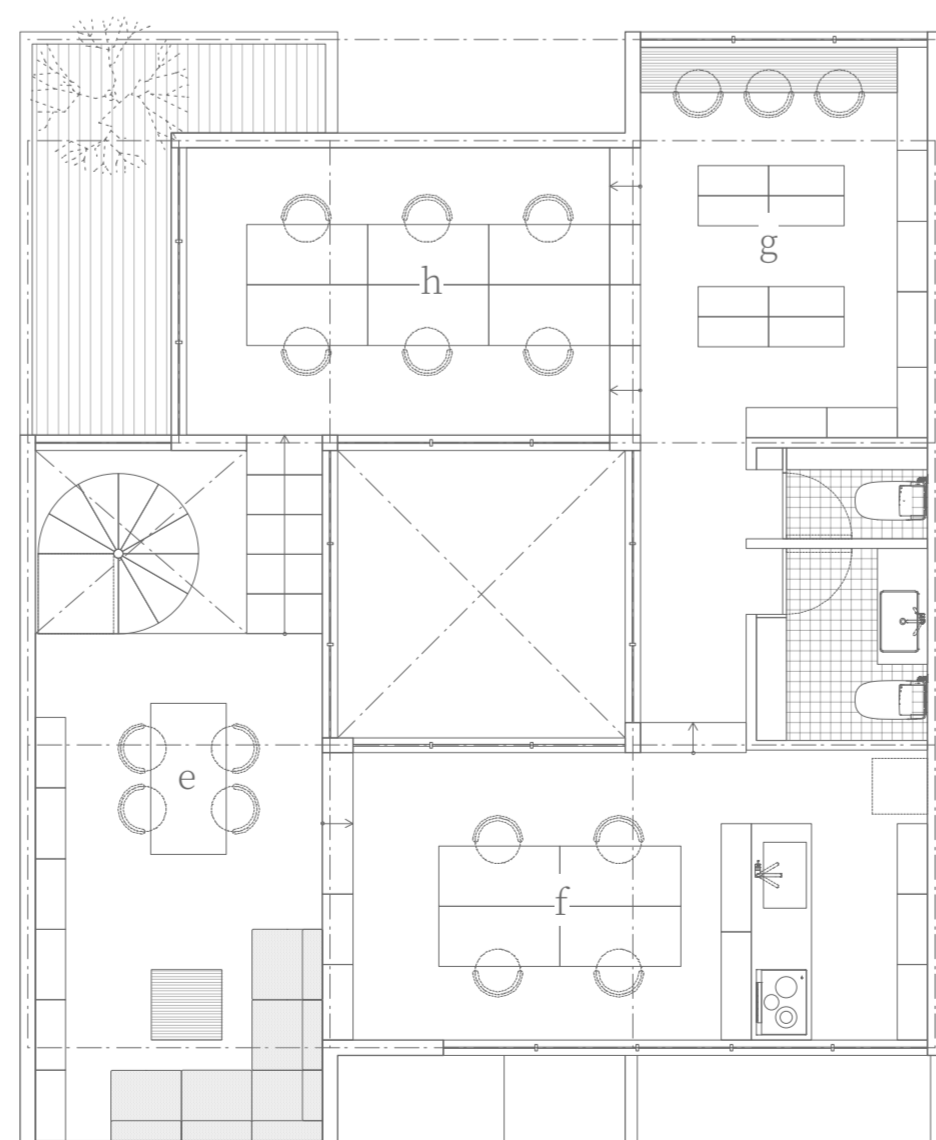
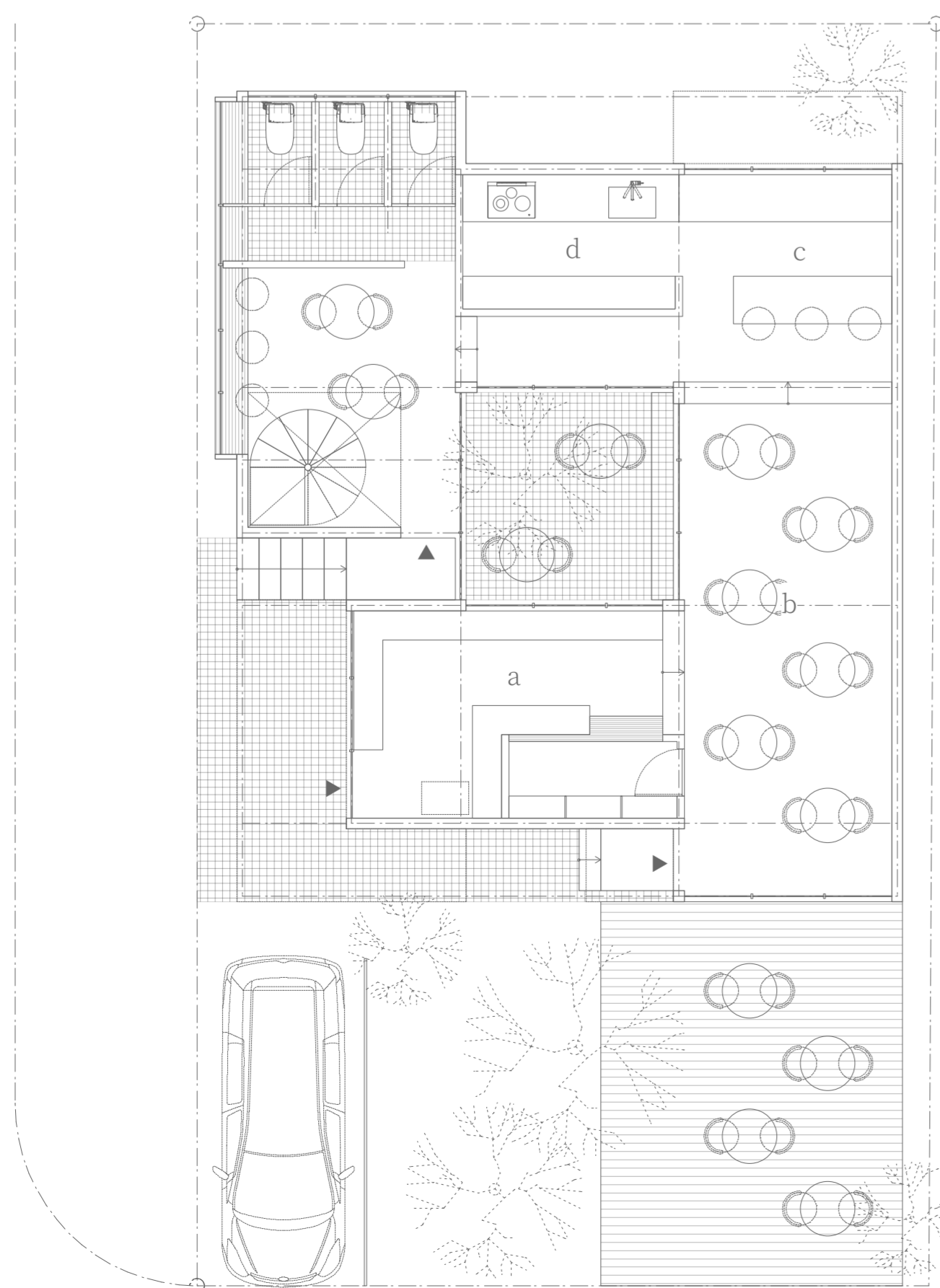
<Phase6>売却・貸出・運営方法の検討

所有者として不要になった場合でも、売却や貸出により建物を有効活用する。

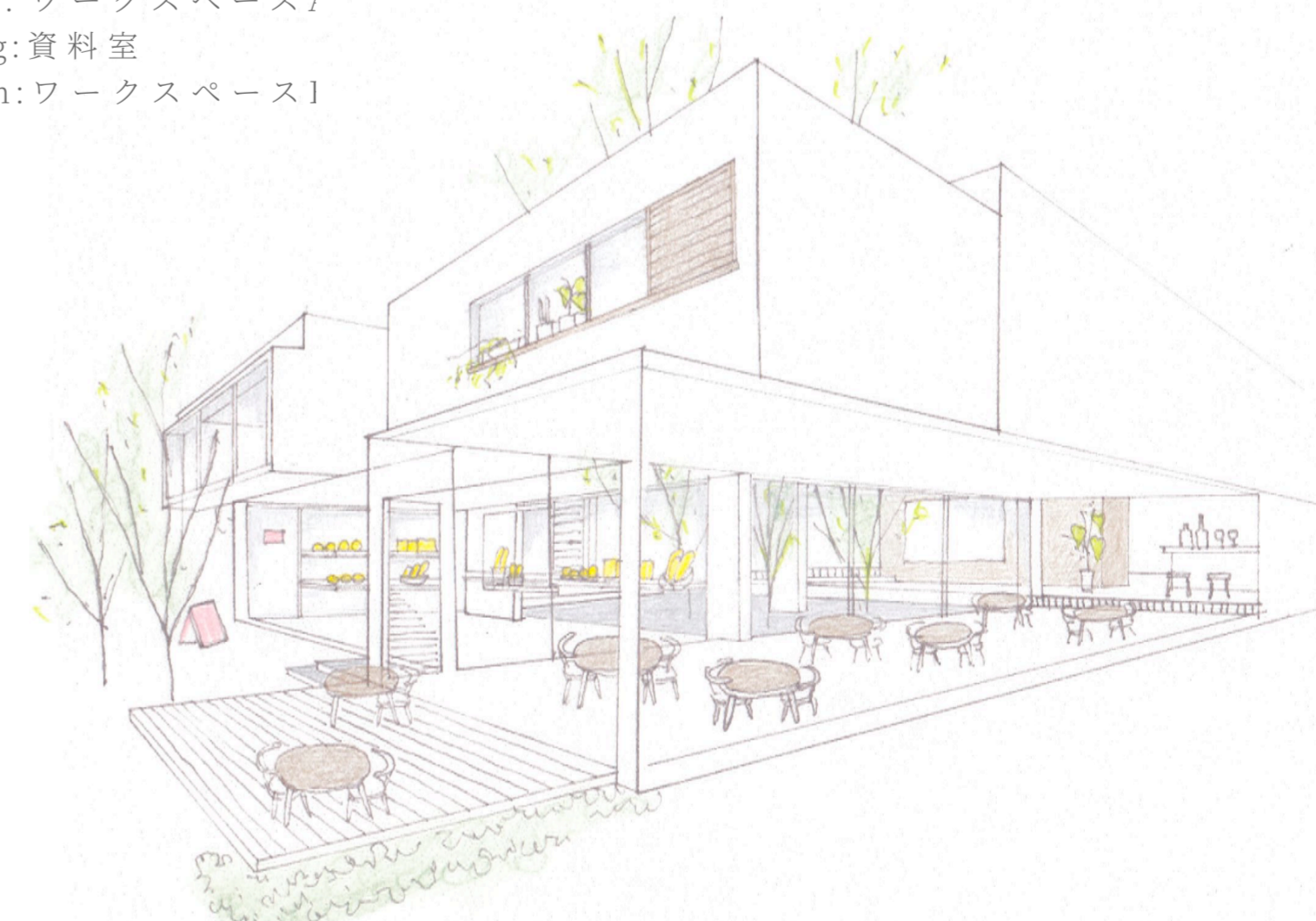
<Phase7>インテリア再計画

間仕切壁や家具の入替、設備の更新により全く新しい用途に変更できる。躯体は変更しないため、従来のリノベーションに比べ容易である。

<Phase8> 第二用途として使う



- a: ベーカリー
- b: カフェ&レストラ
- c: バー
- d: 厨房
- e: 会議スペース
- f: ワークスペースI
- g: 資料室
- h: ワークスペースII



<一階を店舗とする例>

住宅とカフェやパン屋、花屋などの小店舗を併せ持つ形。住宅街のコミュニティの場になる。

<二階をワークスペースとする例>

多様な働き方ができる場として、事務所やシェアオフィス、書庫など様々な使い方が想定される。人が集まる場として活用